

矢作川流域圏懇談会通信

H27 山部会編 vol.9



発行日：平成 28 年 2 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 7 回山の地域部会を開催しました！

1 月 15 日（金）～16 日（土）に第 7 回山の地域部会が根羽村にて開催されました。今回の地域部会では、「平成 27 年度の山部会の活動報告」として進捗状況を報告するとともに、「今後の山部会の活動方針」について話し合いました。また、豊田市で中核製材工場を運営することとなった西垣林業のご担当者をお招きし、情報提供と意見交換を行いました。その他、山村再生担い手づくり事例集の取材先となった根羽村の演芸集団「天下杉」による舞台、薪ボイラーを用いた高齢者福祉施設、根羽杉を使ったモデル住宅・根羽物置の観賞、見学を行いました。



日時：平成 28 年 1 月 15 日（金）～16 日（土）
場所：根羽村老人福祉センター「しゃくなげ」 他
参加者：25 名（事務局含む）

◆主な会議内容

1. 今年度の山部会の活動進捗報告

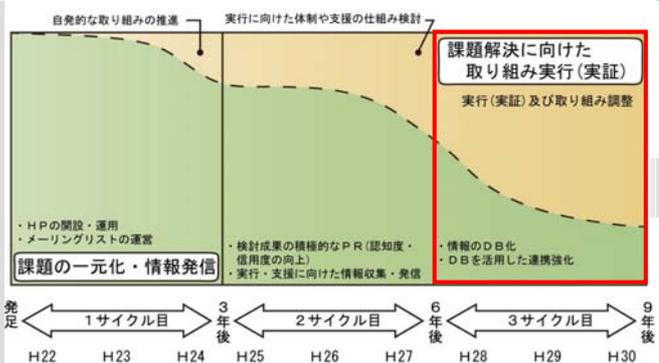
今年度は、山部会 3 ヶ年の活動テーマである①山村再生担い手事例集、②山村ミーティング、③森づくりガイドライン、④木づかいガイドラインの 4 つのテーマについて 8 回の WG を実施し話し合ってきました。山部会 WG は、開催地が矢作川流域圏内を巡るのが特徴で、今年度は豊田市足助、根羽村、恵那市上矢作、岡崎市額田、西尾市東幡豆を巡り、それぞれの地域に即した現状を把握し、議論を深めました。また、有志によるオプションでは、長野県内にて根羽スギを用いた温泉施設の見学や近自然森づくりを実践する荒山林業を視察し、矢作川流域圏への展開を目指した勉強会を行いました。



2. 今後の山部会の活動方針

矢作川流域圏懇談会は、3 年を 1 サイクルとして総括を行いながら全 3 サイクルを行うことになっています。1 サイクル目が平成 22 年度より始まり、今年度（平成 27 年度）は 2 サイクル目の最終年度にあたります。したがって、本地域部会では 2 サイクル目の総括と 3 サイクル目の 3 ヶ年の活動方針を議論しました。

2 サイクル目までは、「課題の一元化、情報発信」が主な取り組み内容となっておりましたが、今後は「課題解決に向けた取り組み実行（実証）」に重点がおかれます。



3. 意見交換

豊田市では、平成 30 年度より中核製材工場が稼働することになりました。本日は公募により採択された西垣林業(株)伊藤部長より、事業の趣旨と目標をご紹介いただき、流域圏の望ましい未来を語り合いました。



4. 根羽村の演芸集団、木づかいに関する観賞・見学

山部会の活動テーマのひとつである山村再生担い手づくり事例集では、地域を元気にする団体の取材を行ってきました。今回は、その一つである根羽村の演芸集団「天下杉」の舞台を観賞しました。また、根羽村が発信する木づかいとして、薪ボイラーを利用した高齢者福祉施設「なごみ」、根羽杉を使ったモデル住宅、根羽物置を見学しました。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●今年度の山部会の活動進捗報告

＜山村再生担い手づくり事例集＞

- ・事例集のマップについて、ホームページ上では、どれくらいの大きさで出すのか。(今村)
 - ▶ ホームページ上では、自由に拡大ができるようにする。(大森)
- ・全体会議の資料における、事例集のマップは流域全体が1枚である方が分かりやすいので、字の大きさ等工夫をお願いしたい。(洲崎)
 - ▶ 事例集の作成は3ヶ年行っているため、活動拠点のポイントについては、作成年ごとに3色に分けて表示すると良いと思う。その他の表現方法を含め、今後相談して決めていきたい。(中田)

＜山村ミーティング＞

- ・この度、足助の原木市場が県森連に移管された。森林組合から離れたので、もみじ祭りを発展させた流域祭りに移行することが可能かも知れない。豊田森林組合の状況はどうか。(蔵治)
 - ▶ 森林組合としては、公式な発表はないが、もみじ祭りは今年度が最後だと認識している。だからといって、来年度以降のビジョンは決まっていない。(木下)
 - ▶ チャンスと捉えるべきだ。森林組合は根羽、恵南、旭、小原、足助、下山、岡崎があって、岡崎には岡森フォレスターがあったり、色々な活動を皆さんが独自で行っている。これらをつなぐことができれば、何かイベントが開催できるかも知れない。西垣林業さんも加わっていただき、流域で盛り上げていきたいと思う。(丹羽)

＜森づくりガイドライン＞

- ・資料にまとめていただいたが、今年度できた事を示したい。岡崎市や豊田市においては、様々な新しい動きがあって、それは流域圏全体の森づくりにつながる動きだ。その中で、提案や情報提供・交換の仕組み作りを考えているところである。(蔵治)
- ・岡崎市や豊田市の取り組みについては良く理解できたが、他の流域市町村はどうか。(浅田)
 - ▶ 根羽村では、集落周辺環境林という概念を入れて、人と関わるような森林を意図的に作っていく。森林だけではなく、遊休農地と森林が一体となって、資源を活用できるような農林一体化事業を議論している。(今村)
 - ▶ 恵那市では、森林整備に関して基本計画と実施計画が策定されており、実施計画が今年度で終了する。現在、来年度以降の検討を協議中である。(藤井)
- ・矢作川流域の特徴的な森林を部会員によって選定してきたが、これは今後も継続してほしい。(今村)

＜木づかいガイドライン＞

- ・今年度は、木づかいライブ・スギダラキャラバンを中心に動いてきたが、一番大きな収穫は、豊田市におけるプレイスメイキングという経験を経て、木というものが市民の興味関心を引き付けるものであり、日本人は木の民であることに気付かされたことだ。(今村)
- ・木づかいは、根羽村だけで行っていることではないと思われる。他の地域でもアピールする情報があれば、是非知らせていただきたい。(蔵治)

●今後の山部会の活動方針

- ・懇談会の活動資金について、国や企業の新たな事業を模索して、自分たちで調達してはどうか。(丹羽)
- ・山村再生担い手づくり事例集に関しては、今後3年間というより、段階的に翌年の目標を考えたいと思う。(洲崎)
- ・ご提示いただいた図(前頁参照)について、段々と緑から黄色にシフトしてきて、課題解決に向けた取り組みが実行(実証)されるような計画になっているが、6年前に立てた当初の計画が本当に実現可能かを議論すべきかと思う。そもそも、関係団体、関係行政機関がそれぞれの役割について認識を持ち、互いに連携して諸課題に取り組む状況にはない。(蔵治)
- ・これまでの活動成果が発信できるような予算を確保できないものか。(今村)
 - ▶ 矢作川条例(仮)を流域の市町村が同時に作れば、それに基づいた取り組みが行政的に始まると思う。(蔵治)
 - ▶ 中部環境先進5市によるサミットでは、共同宣言を行った。条例の他に宣言という方法もある。(今村)
- ・4つのテーマは非常に良い柱だと思う。今後はより改良するようなテーマを加え市民から理解を得たい。(浅田)

●意見交換(豊田市中核製材工場ができる意義)

- ・県産材を優遇する考えが浸透している。現在、根羽村としては流域材を意識するよう取り組んでいる。豊田市にも働きかけるが、西垣林業さんにもご配慮いただきたい。
 - ▶ 確かに、県産材の指定がついてまわるのが現状だ。今後は地域材という輪に加わって地域と共存したい。(伊藤)
- ・西垣林業さんはA材(製材用)、B材(合板用)の価格の底上げにどのように関わっていくつもりか。(丹羽)
 - ▶ 木材産業はこれまで衰退産業であったが、ここ最近メディアに取り上げられる機会が多くなった。この追い風を利用して、大手の製造業のご意見を参考に売り込みができたと思う。(伊藤)
- ・流域圏にどれくらいの零細製材工場があるかは不明だが、これら工場との共存は可能か。(浅田)
 - ▶ 零細工場にしかできないこともある。それらを融通し合うことで、共存・共栄を目指している。(伊藤)

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

